

「グローバル化のもとでの地域経済の発展－「空洞化」を超えて」 ～2月3日開催の経済産業研究所(RIETI)のセミナーに参加して～

講師は深尾京司一橋大学教授、藤田昌久甲南大学教授のお二人、地域・地方の活性化と関連づけて、空洞化対策の必要性が提言されました。

講師お二人のご意見を次の3つのstepで要約してご紹介します。

※step 1: 抽象的な構想 → step 2: 課題と問題の見極め → step 3: 具体的な政策の実施

step 1: 抽象的な構想

■空洞化の結果、拡大した地域間所得格差縮小のために

- ・国内立地誘因の強化等により、製造業の空洞化を遅らせる。
- ・大企業の海外移転を減速させ、また国内回帰を促す。
- ・製造業に代わる高付加価値産業を地方で育てる。

step 2: 課題と問題の見極め

■空洞化の結果、低下した製造業の全要素生産性（TFP）の回復

■日本経済社会の革新に向けた長期戦略立案

次の三つの視点から長期戦略（ODS 戦略）の立案

1. 世界に開く（Open）
2. 多様性の促進（Diversity）
3. 「賢い集約」のもとにおける連携（Smart Shrinking and Sharing）

■日本の経済社会システムのあらゆるレベルで ODS 戦略を展開・実現

- ・国土・地域システム
- ・企業組織・産業構造
- ・貿易・投資・サプライチェーン
- ・科学技術開発・イノベーション・人材育成・教育

step 3: 具体的な政策の実施

- ・ そのためには、法人税減税や環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の締結等により、国内立地を魅力的にする必要がある。
- ・ 生産性の低い工場が残存する原因を調べ、市場の淘汰メカニズムを促進する。
- ・ 産業集積地への大企業の進出を促す。
- ・ 中小企業の R&D 支出を支援する。
- ・ 高齢化する地方で拡大しつつある医療・介護産業の労働生産性を高める（高付加価値化する）。

■結論

輸送コストが低下し、情報ネットワークが発展した現在、センターに拘る必要はない。これからは、グローバル環境におけるローカル（地方、自社、個人）を見定め、SWOT 分析（強み・弱みの分析）を行い、強みを活用・強化するのはもちろん、弱みをも強みに変えるような強かな長期の戦略の立案と実行が必要である。

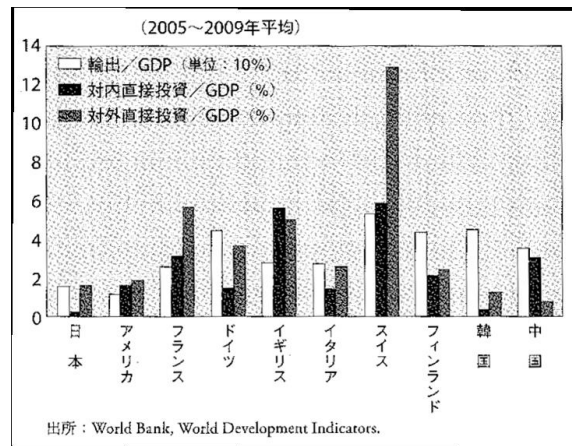
注：個人的な要約です。また、詳しく内容を知りたい向きは次の URL から元資料にアクセスください。

<http://www.rieti.go.jp/events/14020301/info.html>

■私見

このセミナーに参加して気付いたことを 2 点紹介させていただきます。

図表 1. グローバル化の低い日本



出典：戸堂康之『日本経済の底力』中公新書

■GDPを増やせば、対内直接投資増加

セミナーで紹介されたこの図を見て、まず注目されるのは、我が国の対内直接投資が少ないことです。我が国は市場として、あるいは生産拠点、開発拠点として魅力が乏しいこととなります。我が国は米国と並んで輸出依存度が低い内需立国です。対内直接投資ばかりか、国内投資も少なかったことが問題です。新しい需要（新しい価値創造）を喚起し、総需要 GDP を増やさないことには、対内直接投資も増えなければ、日本の活性化はできないと考えられます。言うまでもなく、モノ余りのデフレ下では地方の活性化も女性労働力の活用もさほど必要性とされません。

■集約から分散・競争へ

我が国産業の競争力強化には、今も欧米流の寡占化による経営効率の改善が必要とされていますが、寡占化は競争排除であり、競争の無い社会では現状維持志向になりがちです。改善意欲、創造意欲が減退します。やはり、深尾先生、藤田先生が言われるように Diversity の時代、地方や中小企業・Venture 等々の辺境、末端の時代でしょう。新しい価値を提案し、個々が自らの長所、短所を認識し、差異化を進め、多数の競争の中で新しい価値をブラッシュアップし、世界に問うて行く必要があります。政府や大企業はそうした動きを支援し、連携しなければならないという時代だと考えられます。